

2021年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493500142	事業の開始年月日	平成22年8月1日
		指定年月日	平成22年8月1日
法人名	有限会社 松田メディカルサービス		
事業所名	グループホーム 陽春の里		
所在地	(247-0015) 横浜市栄区中野町56番地の4		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和3年10月12日	評価結果 市町村受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居さんが求める生活に基づいたケアを提供し、これに必要な環境づくりを目指しています。

地域に根差したホームであるよう町内会が実施する行事に参加しています。

入居さんが社会参加できるよう社会資源の把握につとめています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年11月20日	評価機関 評価決定日	令和3年12月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、JR根岸線「港南台」駅からバスに乗り、「本郷」または、「中野町」バス停からほど近く、幹線道路から少し入った静かな住宅地にあります。建物は一棟ですが、1階ユニット、2階ユニットそれぞれ独立した玄関がある事業所です。

<優れている点>

利用者は日常的に職員と雑談をしながら調理をしたりや食事の下ごしらえの手伝いをしています。共用空間の掃除も利用者が率先して行っています。事務室に利用者自らコーヒーを運び、調査者をもてなしてくれる場面もあります。午後にはGPSを作動し、安全確認をしながら一人で日課の散歩に出かける利用者もいます。場面、場面でその人らしい生活を送れるように支援しています。その他、馴染みの神社、美容院、趣味の体操クラブ、鎌倉彫教室なども家族のほか、職員が付き添い、これまでの生活の継続ができるよう支援をしています。利用者のケース検討での支援方法に迷いがある時には、「利用者が求める生活に基づいた支援、環境作りを目指す」という理念に基き、支援につながるよう指標にしています。

<工夫点>

コロナ禍が続き、外部研修の機会が減っていることを踏まえながら、今年度はeラーニングで学ぶ機会をつくっています。認知症理解、高齢者虐待防止関連法を含む虐待防止に関することなどの研修をしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 陽春の里
ユニット名	1F こもれび

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事務所内に掲示して、いつでも確認することができるようにしている。	運営法人の理念を事業所理念として取り組むことを職員間で話し合い、確認をしています。理念は事業所内に掲示をしているほか、利用者のケース検討で迷いがある時には理念に基づいた支援につながるかどうかを指標にしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会・老人会に加入して、積極的にイベントやサロンに参加している。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止や延期となり参加できなかった。	コロナ禍前は、町内会、老人会、地域ケアプラザなどと連携を図りながら積極的にイベントやサロンに参加をしています。最近ではサロンで開催するポッチャのお誘いを受けています。現在、定期的な手伝いボランティアの来訪があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の会議や集まりで、ホームの生活をお話しさせていただいている。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、お話しする機会がなかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	活動報告を通して、意見や提案を頂き、支援に活かしている。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面で活動報告を行い、メールで意見・提案を頂いた。	コロナ禍のため、運営推進会議は書面会議となっています。民生委員、地域ケアプラザ、栄区に活動報告、事故報告など議事録をメールで送付し意見交換しています。	家族参加の働きかけはコロナ収束後を予定しています。家族の参加を得た運営推進会議の開催が期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	主に、運営推進会議で実際にホーム内の様子を見て頂き、活動の報告をしている。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面や電話・メール等で連絡を行った。	区には運営推進会議の報告で事業所の実情を伝えていきます。利用者の区の担当ケースワーカーとは随時電話連絡をとっています。区のグループホーム連絡会、地域ケアプラザの地域ケア会の定期的な会合はコロナ禍で中止が続いています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	委員会は、運営推進会議で開催しているが、対象となる事例はない。職員は、指針に則って年2回研修を実施している。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外部のオンライン研修を実施した。	身体拘束廃止適正化委員会は運営推進会議で実施しています。コロナ禍が続く、外部研修の機会が減っていることを踏まえながら、今年度はeラーニングで学ぶ機会をつくっています。利用者の状況に応じて、基本的に日中の玄関施錠はせず、身体的拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	市の虐待防止に係る一斉点検の自己点検で、虐待防止の振り返りを行っている。	虐待防止に関する理解、高齢者虐待防止関連法を含む虐待防止に関することなどeラーニングで理解を深めています。毎年、横浜市の虐待防止に係る一斉点検で全職員が自己チェックをし、結果を管理者がまとめ職員の意識を把握しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に日常生活自立支援事業や、成年後見制度を利用している利用者はいりますが、主な手続き・対応は管理者が行っているため、職員が不明に思ったことは管理者が説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	主に管理者が説明している。疑問点や不明点にはできるだけ専門用語を使わずに具体的に説明することを心掛けている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	頂いた意見・要望については、ミーティングで話し合い改善につなげている。	コロナ禍で家族の面会制限期間があったので、電話連絡を増やしています。制限緩和をしてからは面会再開の声かけをしています。毎月発行の『「陽春の里」からのお知らせ』には質問や意見を受け付けの記載をし、随時受け付けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者や管理者は、職員に積極的に話しかけて、意見や提案を聞いて実現できるように努めている。実現が難しい場合は、なぜできないのか、具体的に説明するように努めている。	代表者は自ら職員からの意見や提案を聞いています。管理者は日常的に現場に入り、職員とのコミュニケーションを密にしています。職員からの意見や提案も積極的に聞き入れ、代表者と検討をしています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、職員に積極的に話しかけて、希望や要望を確認して、処遇改善に努めている。また、勤務時間や業務内容の相談やダブルワークの希望等、働きやすいように、職場環境や条件の改善に努めている。	職員一人ひとりのワークライフバランスを考慮し、勤務時間、業務内容、ダブルワークなどの勤務条件の希望に応じています。人事評価も職員に示しています。福利厚生については職員からの提案も聞き入れ、職場環境の改善に努めています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	スキルアップや資格取得のための研修への研修費を負担して積極的に参加できるように努めている。	新人職員には1ヶ月間先輩職員が付き、業務をしながら学んでいます。コロナ禍ですが、内部研修、eラーニングなど学ぶ機会を意識して作っています。実務者研修、介護福祉士など資格取得を奨励することで職員の能力向上に努めています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会に加入して、毎年他のグループホームとの交流研修に参加したり、ケアプラザ主催の地域会議に参加して情報交換を行っている。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となった。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	面談時に本人の不安な事や要望を聞いて、ホーム全体で一緒に考えていくことを説明している。また、できるだけわかりやすく、ホームでの生活や活動の様子を説明して、本人が安心してサービスを開始できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始前より、困りごと、不安なこと、要望等を確認して、ホームではどういったことが提案できるか、できるだけ具体的に説明できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族の思いや状況に合わせた最善の支援が提案できるように、面談や話し合い等、迅速に対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	できることについては、家事活動など、一緒に行うようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人の希望を家族に伝えて、家族にも無理のない範囲で協力してもらうようにしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会時間は特に設けず、いつでも面会できる。携帯電話の持ち込み・使用も制限していない。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、面会制限があった。	コロナ禍前は面会時間は特に設けず、家族や友人・知人などいつでも歓迎しています。馴染みの神社、美容院、趣味の体操クラブ、鎌倉彫教室なども家族のほか、職員が付き添い継続できるよう支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者間でトラブルにならないように、職員が間に入り関係を保つようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ホームから積極的に連絡することはないが、町内で会った時などは挨拶している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話などから情報を得て、職員間での情報共有に努めている。	日常的に、「気づいた点シート」を活用し、利用者の希望・意向の把握に努めています。利用者の言動やケア内容につながる点を各職員が「気づいた点シート」に明記、それを基に「ケアノート」で改善案を検討し、ミーティング時に職員で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族から聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	各職員が得た情報を、ミーティングで共有して、ケア方法の決定に活かすようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ミーティングにて、介護計画の見直しを定期的に行っている。	本人の主訴、家族の意向を確認し、アセスメントシートを活用しています。月1回のミーティングで職員から意見や提案を集約し、管理者が介護計画書を作成しています。「気づいた点シート」から、課題の多い人など優先順位により、ケアプランを見直しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録と併せて連絡ノートも活用して職員同士、情報の共有をしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	要望が既存のサービスでは提供できない場合でも、工夫することで実現できないか、という視点で話し合うように努めている。また、急な受診や、習い事への送迎も職員のシフト調整で可能な限り対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	横浜市のおむつ給付事業の活用、定期的な訪問理美容サービスの利用。			
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に2回訪問医が診察を行っている。	かかりつけ医の継続、変更の選択ができます。月2回の訪問診療、定期的な歯科医の訪問があります。介護職員が月6回看護職員としても勤務しています。外部受診は、基本的に家族対応ですが、職員同行もしています。受診情報は、職員間で共有しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期訪問の際、あらかじめ看護師に本人の状態や希望を伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院前より連携室と連絡をとり、本人の状態の把握に努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化や終末期のホームの指針、対応等を説明している。その時になる前に、医師・看護師・職員・本人・家族等、関係者が集まり、医師から本人の身体の状態を説明してもらい、本人・家族等の意向を踏まえ、支援方法を関係者全員で共有するように	入居契約時、看取りに関する考え方や看取りに関する方針を本人、家族へ説明し同意を得ています。食事摂取が困難になった時、協力医と家族や職員等関係者が面談し、本人、家族の意向を基にチームで支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	防災・避難訓練時に消防署の指導で緊急時の対処方法や、救命方法等、勉強会を行っている。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施できなかった。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回防災・避難訓練を行っている。消防署立ち会いのもと行うが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、消防署立ち会いなしで、自主訓練を行った。	避難経路や設備確認の自主訓練をしています。消防署の指導もあり、日頃の業務の中で、火元確認、避難経路の確保など項目を決め、防災自主点検を行っています。冷蔵庫横に「火災発生時基本手順」を掲示しています。地域の防災訓練に参加しています。	備蓄リストは作成されています。現在備蓄は分散保管をしていますが、いざという時に必要なものがすぐに用意できるよう、なるべくまとめて保管管理をすることが望まれます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	トイレ誘導の際に、周りの方になるべくわからないように、あまり大きな声で声かけをしないようにしている。	利用者が嫌がる事や自分がされて嫌な事はしないように職員間で共有しています。プライドを傷つけない、介入し過ぎないように対応しています。排泄時や入浴時、更衣時などは、タオルで隠したり、カーテンを閉めたりして利用者に配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	答えることが難しい方の場合には「はい・いいえ」で答えられるような声かけをして希望の把握をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	あらためて聞くことはしていないが、会話や独り言などから判断して、できる限り希望に沿えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	更衣時に一緒に用意できる方は一緒に用意している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立作成時に一緒に考えたり、調理や片付けも声かけして、参加を促している。	冷蔵庫にある食材で献立を考えています。食材はネットスーパーで注文したり、利用者と一緒に買い物に行っています。誕生日の夕食、イベントでの行事食メニュー等もあります。利用者は、玉ねぎを剥いたり、包丁を使ったりできる事を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	入居者一人一人の状態に合わせて、食事形態を変えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを実施している。歯科医からのアドバイスにより、歯間ブラシや舌ブラシなども活用している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	食事の前後にトイレ誘導して、なるべくトイレにて排泄を行っている。	食事前や利用者の動作により、声かけ誘導しています。タイミングを、職員が把握し、職員の介入により羞恥心のある方には、容量の多いリハビリパンツを利用し、交換回数を減らしています。「気づいた点シート」から布パンツに改善できた利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	冷たい牛乳を提供したり、トイレ便座に座る習慣をもつようにしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	拒否の際には時間や日にちをずらしている。また、入浴の希望についても、できる限り対応している。	1階にリフト浴があり、湯は利用者ごとに入れ替えています。職員と会話しながら一人で入浴する方もいます。午前・午後の希望に沿って週2回ほど入浴しています。入浴嫌いの方には、職員やタイミングを代えて誘導しています。ゆず湯、菖蒲湯などで入浴を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	各入居者に合わせた入床時間で介助を行っている。また、体力や身体状況に合わせて、必要があれば日中にも臥床の機会を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬ミスが起きないように、与薬表を用いてチェックをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事活動を通して、役割を持ってもらえるように関わっている。また、買い物など外出を通して気分転換もはかっている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買い物や散歩など外に出かける機会を設けている。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、減少した。	駐車場の長椅子で雑談したり、散歩や買い物の希望者には職員が同行しています。ひとりで散歩に出かける利用者には、職員が居場所を把握する為、本人や家族の承諾を得て、GPSを付けて出かけています。花見などは、家族に参加案内を出しフロアごとに全員で外出しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族の理解が得られた場合には、入居者本人にお金の管理を任せている。それ以外の場合にも、本人希望時には使うことができるようにホームで預かり、都度、出金管理をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があればホームの電話を使用してもらっている。携帯電話を持っている方も使い方がわからないようであれば支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節を意識できるような飾りつけを行っている。テーブルや家具の配置は、頻繁に変えずに、変える時にも様子を見ながら行っている。	襖や障子を外した居間、台所、食堂、廊下は大きな窓から明るい日差しが差し込み、開放的な空間となっています。居間に続く和室のソファでは、リラクセスできるよう配慮しています。アイランド式キッチンを利用者と職員と一緒に会話を楽しめる空間にもなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	安全を重視した結果、視線を遮るものが少なく、一人で過ごせる場所がほとんどないが、和室や食堂など、好きな場所で過ごしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時の持ち物として、できるだけ使いやすく落ち着く本人の馴染みの物の用意をお願いしているが、新調される方も多し。レイアウトなどは、本人・家族と一緒に検討している。	引き戸や開き戸の個室には、鍵をしてプライバシーが確保できるようになっています。畳部屋の用意もあります。エアコン、ベッドは備え付けです。照明、カーテン、タンスなど持ち込みの制限はありません。仏壇、パソコンなど必要品とともに一人ひとりが安全で居心地よい空間で過ごせるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者の身体の状態に合わせて、手すりを増設したり、環境を整えるように努めている。		

事業所名	グループホーム 陽春の里
ユニット名	2F ひだまり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員がいつでも見れるように、入口に掲示してある。ミーティング等で利用者の課題を話し合う時は、理念に基づいて話し合うように心掛けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会・老人会に加入して、積極的にイベントやサロンに参加している。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止や延期となり参加できなかった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の会議や集まりで、ホームの生活をお話しさせていただいている。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、お話しする機会がなかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	活動報告を通して、意見や提案を頂き、支援に活かしている。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面で活動報告を行い、メールで意見・提案を頂いた。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	主に、運営推進会議で実際にホーム内の様子を見て頂き、活動の報告をしている。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面や電話・メール等で連絡を行った。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	委員会は、運営推進会議で開催しているが、対象となる事例はない。職員は、指針に則って年2回研修を実施している。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外部のオンライン研修を実施した。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	市の虐待防止に係る一斉点検の自己点検で、虐待防止の振り返りを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に日常生活自立支援事業や、成年後見制度を利用している利用者はいるが、主な手続き・対応は管理者が行っているため、職員が不明に思ったことは管理者が説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	主に管理者が説明している。疑問点や不明点にはできるだけ専門用語を使わずに具体的に説明することを心掛けている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の要望は聞き逃さないように、普段から話す機会を多く持つように心掛けている。ご家族には面会時に事業所側から積極的に話しかけて、話しやすい環境作りに努めている。集めた情報は職員同士、共有して、速やかに話し合えるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者や管理者は、職員に積極的に話しかけて、意見や提案を聞いて実現できるように努めている。実現が難しい場合は、なぜできないのか、具体的に説明するように努めている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、職員に積極的に話しかけて、希望や要望を確認して、処遇改善に努めている。また、勤務時間や業務内容の相談やダブルワークの希望等、働きやすいように、職場環境や条件の改善に努めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	スキルアップや資格取得のための研修への研修費を負担して積極的に参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会に加入して、毎年他のグループホームとの交流研修に参加したり、ケアプラザ主催の地域会議に参加して情報交換を行っている。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となった。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に楽しく本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	面談時に本人の不安な事や要望を聞いて、ホーム全体で一緒に考えていくことを説明している。また、できるだけわかりやすく、ホームでの生活や活動の様子を説明して、本人が安心してサービスを開始できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始前より、困りごと、不安なこと、要望等を確認して、ホームではどういったことが提案できるか、できるだけ具体的に説明できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族の思いや状況に合わせた最善の支援が提案できるように、面談や話し合い等、迅速に対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は、ホームでの生活は利用者が中心に行えるように、必要以上の介護をしないように気をつけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	心身の変化や、気になることは、毎月の手紙や、面会時・電話等で直接伝えて、情報を共有して、意見・提案を頂き一緒に考えていくように努めている。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、手紙と電話での相談が主であった。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	友人や同級生、親戚等、ホームに面会に来たり、電話連絡をしている方や、馴染みの店に買い物へ行く方、墓参りに行く方等いる。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、減少した。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者が活躍できる役割・活動等を気持ちよくできるように職員が声かけして調整している。利用者同士の些細なことでの誤解のトラブルには、職員が伝え直して調整している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ホームから積極的に連絡することはないが、町内で会った時などは挨拶している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々、職員から積極的に話しかけて、会話や様子などから気になることを「気づいた点シート」に記入して職員同士情報を共有して、課題が見つければ、利用者本位を心掛けながらミーティングで話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の相談・面談から家事の仕方や生活習慣の情報を把握して、入居前の情報ではわからなかったことは、再度、本人・関係者に確認して職員同士情報を共有して支援方法に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	1日の生活リズムを把握して、発言や様子から気になることを「気づいた点シート」に記入して職員同士情報を共有して総合的な課題の発見に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人・関係者からの意向や要望と「気づいた点シート」からの課題を毎月1回ミーティングで検討して、そこでの意見や提案を本人・関係者と話し合っている。必要性・緊急性の高い課題に対しては、できるだけ早く話し合えるように調整している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	職員同士共有したい情報や、特変・事故等は個人記録にわかりやすいように赤字で記入して、「申し送りノート」にも記入している。また、ミーティングの必要性のある内容は「気付いた点シート」に記入して介護計画に抽出すべきかを検討しやすくしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	要望が既存のサービスでは提供できない場合でも、工夫することで実現できないか、という視点で話し合うように努めている。また、急な受診や習い事への送迎も職員のシフト調整で可能な限り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	1人で散歩される方や、迷ってしまう可能性のある方へは、GPS見守りサービスや徘徊SOSへの登録をしている。横浜市のおむつ給付事業の活用や、定期的な訪問理美容サービスの利用、また、近所のボランティアさんが毎週1回ゲームやお話に来てくれる。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前にかかりつけ医や希望する医療機関等の継続を確認しているが、ほとんどの方が、本人の通院の負担や、緊急時の対応等考慮して、協力医療機関を主治医に希望されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師が介護職員としても勤務しているため、些細なことでも早めに相談でき、対応できることが多い。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院前に様子を見に行き、連携室と協力して退院支援計画を確認、家族より情報を収集して、退院後の課題を、事前に話し合い、スムーズに退院できるように努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化や終末期のホームの指針、対応等を説明している。その時になる前に、医師・看護師・職員・本人・家族等関係者が集まり、医師から本人の状態を説明してもらい本人・家族等の意向を踏まえて支援方法を関係者全員で共有するように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	防災・避難訓練時に消防署の指導で緊急時の対処方法や、救命方法等、勉強会を行っている。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施できず。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、防災・避難訓練を行っている。消防署立ち合いの下行うが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、自主訓練を行った。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	見守りのために、居室・トイレ・入浴等、プライバシーの領域に職員が入ってしまう場面が多くなってしまいが、それが当たり前のことと思わないように、定期的に研修や勉強会を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	まずは、本人の思うようにできるように、意思を確認して、意思表示できない方には、選択肢を2択にしたり、表情や様子で把握するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事やおやつなどの大まかな時間は決まっているが、基本的には利用者それぞれに好きなように過ごしていただいている。買い物・散歩・入浴等の希望は利用者と一緒に相談しながら、折り合いをつけている。実現できない場合は後日調整している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着替えは、基本的には、本人が着たいものを選んで着ている。自己決定が難しい場合は、選択肢を2択にしたり、できるだけ自分で選んでもらっている。外出の際は化粧の声かけをしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	皮むきの得意な方、包丁の切り方が得意な方、味付けが得意な方、片付けが得意な方等、職員が把握して、自信をもって行えることにお誘いしてほとんどの食事準備・片付け等を一緒に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量や体重の変化に注意している。また、嚥下能力による食事形状や嗜好による栄養の偏りなど、どのように工夫して提供したら食べやすいかを常に職員同士話し合っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、忘れてしまっている方には声かけて促している。ほとんどの方が訪問歯科医の定期的な診療を受けており、口腔内の問題に対して早期発見、治療につなげている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	1人でトイレに行けない方は時間や様子を見てさりげなく声かけするように心掛けている。パッドやリハビリパンツ等必要の方は定期的に容量や使用の必要性等、検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の方は、排便の状態を把握できるように、個人記録や申し送りで職員同士情報を共有して、牛乳やヨーグルト等の水分補給を促して、医師や看護師と相談して内服薬の調整を行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的には1人で入浴できる方は必要以上の介入はせず、脱衣所からの見守りで本人のペース・時間で、気兼ねなく入浴を行っている。介入が必要な方は、職員人員の都合もあり、見守り・介入がきかない時があるため、本人の要望が満たせない時がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動を促して、生活リズムを整えるように努めている。体調確認しながら、休息や午睡を勧めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局の指導・管理を受けながら、職員が内服介助をしている。誤薬が起きないように、内服までの支援方法を記載したものを掲示している。間違いが発見できるように、セット・確認・投薬の役割をそれぞれ別の職員が行っている。薬内容確認できるようにファイル		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	女性の利用者が多いため、家事活動への参加が多い。裁縫が得意な方は他利用者の洋服のほつれを直してあげたり、お花の好きな方はベランダでの花や野菜の水やりを行っている。月2回の習い事をされている方の送迎を家族と交代で支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	定期的に散歩や買い物を行っている。桜やあじさい等、季節ごとのお花を見に出かけたり、外食や遠足、町内会のイベント等、企画して出かけている。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、制限して活動した。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的にホームで管理して毎月収支を家族に報告している。一部の方は家族了解を得て自己管理されている方もいる。念のためレシート確認や自己申告である程度のお所持金把握して、紛失・盗難のトラブルにならないようにしている。自分で支払える方は支払いをし		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話の通話・メールをされる方や、PCでメールをされる方もいる。操作方法に困る時は職員が説明して支援している。年賀状や手紙等は、住所や名前等、間違いがないか、職員が確認して支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	加湿器や空気清浄機等で室温や湿度を管理している。季節の花を、目に留まりやすい場所に飾ったり、季節ごとのおひなさまやクリスマスツリー・七夕の笹等、用意している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事の席は基本的に決まっているが、食事以外の時は自由に座ってもらっている。和室にはソファを設置してゆったりとTVを見たり、利用者同士お話ができるスペースを作っている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時の持ち物としてできるだけ使いやすく落ち着く本人の馴染みの物の用意をお願いしているが、新調される方も多い。レイアウトなどは本人・家族と一緒に検討している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレの扉に「トイレ」と掲示したり、台所の収納扉には、「調味料」「器具」の名前を掲示して、迷わないようにしている。利用者の身体に合わせて、物干しの高さを変えたり、浴室やトイレ等の手すりを増設・位置替え等、使いやすいように環境整備に努め		

2021年度

事業所名 グループホーム 陽春の里
 作成日： 2022年 1月 12日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議に家族の参加ができていない。	家族に参加してもらう。	家族に参加の働きかけを行っていたがコロナ禍のため保留になっていた。改めて働きかけを行い、コロナ収束後の対面開催時には参加しやすい日程を調整したり、内容を充実させて、できるだけ参加してもらう。	12ヶ月
2	35	災害時用の備蓄保管が収納場所が少ないため分散保管となり、いざという時に用意に時間がかかる。	災害時用の備蓄をまとめて管理する。	できるだけ収納場所を確保するために、資料をデータ化したり、消防法に該当しないように気をつけて、空いた空間を有効活用できるような環境を整えていく。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月